



平成 20 年 4 月 14 日

各 位

会社名 小野薬品工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 是金 俊治
(コード番号 4528 東証・大証一部)
問合せ先 取締役広報室長 森本 公也
(TEL : 06-6263-5670)

米国開発拠点「ONO PHARMA USA,INC. (OPUS)」の機能拡充について

—OPUS にグローバル開発本部および戦略研究提携部を新たに設立—

当社は、「病気と苦痛に対する人間の戦いのために」を経営理念とし、特定分野に特化した研究開発型国際製薬企業（グローバル・スペシャリティ・ファーマ）の実現に向けて努力を重ねております。

これまで培ってきた当社の技術を活かせる領域、すなわちプロスタグランジン、酵素阻害剤、神経科学、細胞内情報伝達分野を重点分野とし、革新的新薬の創製に努めるとともに、当社の遺伝子資産からの医薬品創製にも積極的に取り組んでおります。

今般、当社は、新薬開発における国際競争力を一層強化するとともに、バイオベンチャーや研究機関との創薬提携をより強力に推進することを目的として、本年 5 月 1 日付で当社の 100%子会社であります ONO PHARMA USA,INC. (米国ニュージャージー州、以下 OPUS) に新たにグローバル開発本部および戦略研究提携部を設立することになりましたので、お知らせいたします。

<グローバル開発本部>

世界規模での新薬開発競争を勝ち抜くためには、開発スピードと質の高いデータが求められております。当社は、化合物オリエントの研究体制から創製された独創的・革新的な新薬候補化合物の有効性と安全性の早期確立をめざし、1998 年に設立した OPUS および英国の現地法人 (ONO PHARMA UK LTD、以下 OPUK) を海外開発拠点とし、日米欧の三極が密接に連携し、世界標準に即したスピーディかつ効率的な臨床試験を積極的に実施しております。

また、その実施にあたっては、新薬候補化合物の作用メカニズムに基づき、より有効性が期待される患者さんを対象に開発を進めるなど、化合物の特性を踏まえた臨床試験を実施することで確実性の向上にも努めております。

さらに、当社は、米国での承認取得をファーストプライオリティとしておりますことから、これまでも米国を中心とした臨床開発に積極的に取り組んでおります。

現状、当社の開発パイプラインは、国内のプロジェクト数が海外のプロジェクト数を上回っておりますが、今後も欧米先行型の開発を一層推進しますので、2 年後の 2010 年以降には海外における開発プロジェクト数が国内でのプロジェクト数を大幅に上回ってくる見込みです。こうした状況を見据えて、当社は OPUS のさらなる機能拡充を検討してまいりました結果、今般、当該現地法人にグローバル開発本部を設立することにいたしました。

グローバル開発本部は、従来の OPUS および OPUK の臨床開発担当部署ならびに日本の開発担当部署を傘下におき、日米欧三極の臨床開発におけるトータルマネジメントを行うとともに、これまで以上に積極的な臨床試験の推進を図ります。

なお、現在、本社開発本部の松岡昌三氏（専務取締役開発本部長）が OPUS の会長兼グローバル開発本部長として米国に常駐することになりますので、米国を中心とした臨床開発体制がより強化されるものと考えております。

<戦略研究提携部>

当社は、創薬力のさらなる向上と開発パイプラインの拡充を図るため、昨年 3 月、本社内に事業戦略本部を立ち上げ、バイオベンチャーとの創薬提携や新薬候補化合物の導入など戦略的アライアンスに積極的に取り組んできました。

これまでに、バイオベンチャーとの創薬提携では、キナーゼ阻害剤の創薬について米国ローカス社と、また、プロテアーゼ阻害剤の創薬では独エボテック社と提携契約を締結しました。また、新薬候補化合物の導入では、短時間作用型の全身麻酔薬を英国セネス社から、血小板減少症治療薬を日産化学工業から獲得するなど、着実に活動の成果をあげております。

しかしながら、創薬提携活動においては、先進的な技術を有し、かつ創薬能力の高い欧米のバイオベンチャーとの提携を目的としておりますことから、今般、シーズ探索やベンチャーとの創薬提携活動の拠点を日本から OPUS に移し、新たに戦略研究提携部としてアライアンスの一層の強化に努めてまいります。

以上